

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1771700281		
法人名	株式会社 鶴の恩返し		
事業所名	鶴の恩返しホーム		
所在地	石川県鳳珠郡能登町字小木1丁目161番2		
自己評価作成日	令和3年9月30日	評価結果市町村受理日	令和3年12月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社寺井潔ソーシャルワーカー事務所		
所在地	金沢市有松2丁目4番32号		
訪問調査日	令和3年11月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

立地条件に恵まれ居室から見える景色やフロアから見える木々や立山を眺める事ができます。家庭的な環境で利用者様を第一に考え常に寄り添い職員との関係が良好である。利用者様のご家族から毎年、大量の柿を頂き職員と利用者様とで干し柿を作ります。毎年恒例になった年の暮れには同系列の施設と合同で、餅つき大会を行い交流を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナのため今まで実施して来た地域との交流や行事、ドライブ、外出支援等が十分にできなくなっている。そんな中でも、家族から自宅で一日過ごしたいという要望については個別に対応して、送迎なども事業所で支援してできるだけ家族のつながりが途切れないようにしている。回数は減っているが、ドライブを利用した外出もできるだけ行っている。また、法人事業所間の利用者の交流事業(餅つき大会、干し柿づくり)は利用者の楽しみとなっている。
食事はその時期の旬の食材を出すようにしている。ご近所から季節の野菜や魚を頂くこともあり、サツマイモをもらったら利用者に見せ「どうやって食べる」と聞いたり、「今日鍋にするけど、なに鍋にする」と聞いてみたりしている。リビングでエンドウ豆の筋取りやもやしの根取りなどを手伝ってもらっている。利用者の誕生日や季節の行事の日には、少しだけ豪華な食事を提供して皆で楽しんでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~59で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
60	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	67	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
61	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,42)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	68	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
62	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:42)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
63	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:40,41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
64	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:53)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	71	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
65	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	72	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
66	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは利用者様の尊厳を守り、終生の家庭として、その灯りをともし続けます。」の理念を掲げ掲示しているが全職員が共有出来ていない。全職員に周知してもらえるようにミーティングで話しあっている。	管理者は今年7月からこの事業所で勤務をしている。職員の異動や退職などもあり、あらためて管理者が理念の共有と実践に努めている。ミーティング時には理念について質問したり、「自分が利用者の立場になって考える」ことの大切さについて話しかけている。理念の他に、事業所コンセプトや重点目標を定めその実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルスの影響で恒例の祭りなどに参加できなくなった。最近、開設した道の駅や海水浴場など近場へ車窓ドライブに行っている。	新型コロナウイルス感染症のため、従前のような地域交流はできていない。ただ、事業所前の駐車場は広々としており、天気の良い日には立山連峰を望むこともできるため利用者は思い思いにひなたぼっこや散歩を楽しんでいる。今年度は、地域の神社の神主さんが「お札収め」に訪問してくれ、利用者にお祓いをして頂いた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、新型コロナウイルスの影響で自粛している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、新型コロナウイルスの影響で運営推進会議は開けていないが2か月に1度書類を運営推進委員の方と利用者様の家族に送付している。	町会長、民生委員、家族代表、協力医療機関、能登町役場職員が運営推進会議のメンバーとなっている。ただ、コロナ下であり役場の指導もあり事業所内部のみでの開催となっている。会議では利用者の状況、行事報告、ヒヤリハット事故報告、身体拘束についての報告が行われその議事録を関係者に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在、新型コロナウイルスの影響で運営推進会議は中止している。文章や電話にて連絡を取り合っている。	能登町以外に輪島市、珠洲市とも協定を結んで利用者を受け入れているが、コロナのため十分に連携を取ることが出来ず、事務連絡が主となっている。生活保護のワーカーが面会に訪れているくらいで、連絡は郵便や電話等となっている。今年度は報告すべき事故は起きていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、衛生面でどうしても防ぐ事が不可能で危険につながると判断された時は、本人・ご家族様の同意の元、せざるを得ない事もあった。長期に渡らないように試行錯誤を繰り返している。	身体拘束適正化のマニュアルが策定されていて、身体拘束適正化の検討委員会は開催されているが研修の記録が確認できなかった。転倒予防のためにセンサー等を利用している人は6名いる。玄関の施錠は防犯対策のため、夜間の時間帯のみ行っている。	身体拘束等の適正化のための研修の実施が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新型コロナウイルスの影響で研修は中止している。 虐待の意味を個々に理解してもらえるようにミーティングで話し合いを行った。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度は勉強会を実施出来ていない。 充分、理解している職員は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様からの入所希望はほとんどない。 家族からの申し込みにより入所となる。 契約に関しては医療機関や自宅に出向いて情報収集に努めている。家族の要望、疑問点等を伺いサービス内容の説明をし契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ケアケア日誌を配布。返信用封筒を同封し意見や要望を書いて頂き返信して頂いている。 面会や電話対応時に意見などを聞いています。 全職員も認識しています。	苦情の体制は整備されて、重要事項説明書等で家族に周知されているが、今のところ苦情はない。コロナのため家族はリビングの窓越しにしか面会できないので今までのように直接職員と話し合える機会は少なくなっている。ただ、毎月家族の下に利用者ひとり一人の近況報告(郵送)を行う時に返信用封筒を同封して家族の要望、意見を聴取している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度、全施設の管理者会議を実施しています。 ホームではミーティング、ケアカンファレンス、業務カンファレンスを通して話し合いを実施しています。	法人全体の管理者会議で決定したことや連絡事項を毎月の事業所内のミーティングで伝えている。職員の意見は、管理者はシフト勤務に入っているのいつでも聴取している。代表者も近くに住んでおり、また時々事業所の勤務にも入っているため職員は気兼ねなく会話が出来る。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準に関しては自己評価を記入してもらい管理者が評価を行い本社にて毎年、給与水準をあげています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・看護師が現場に入り随時、職員の指導及び教育を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	居宅ケアマネ、医療現場のソーシャルワーカーとの交流を密にしサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の言葉を、そのまま記録し意向を理解し本人様の不安を軽減できるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の不安や要望など傾聴し軽減できるように取り組んでいる。面会時や電話で近況を伝えるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを開始した理由とする課題とともに入居の際の本人と家族の意向を受け入れ、ホームや職員に対して安心感を持って頂けるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方に合った作業を職員と一緒に食器拭きや洗濯量などを見守りながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	イベントなどを実施している。ご家族様の参加はありません。ご家族様も高齢に成極力負担を掛けぬようにしています。実施したイベントに関してはケアケア日誌を通じてお伝えし信頼関係の構築に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族からの外出の依頼があるは、家族の要望があれば送迎している。 現在は新型コロナウイルスの影響で外出、外泊を行っていない。	コロナ下ではあるが、家族から自宅で一日過ごしたいという要望については個別に対応している。送迎なども事業所で支援してできるだけ家族のつながりが途切れないようにしている。ドライブを利用した外出も積極的に行い、法人事業所間の利用者の交流事業なども実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	職員が声掛けし1日2回の生活リハビリ、カラオ ケ等、全利用者が参加出来る行事をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでターミナルを迎え、他界された利用者 様のお通夜や葬儀に職員は参加している。強 制ではなく自分の意思で参加している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	利用者の思いや希望になるべく答えられるよう に努めている。前回の課題にもあったが、本人 の言葉を日誌にしっかり記入していくのを職員 全体で統一していきたいと思います。	利用者の思いや意向の把握のために、頻回 に声かけを行ったり話しかけて反応、表情を読 み取るというコミュニケーションを大切にしてい る。管理者はノンバーバルな表現にとりわけ気 を付けましょうということを職員に毎日伝えてい る。そして気づいたことを共有することの大切さ も教育している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時、利用者様の情報の収集や家族の方 の面会時に情報収集をしている。今までの暮ら し、生活環境を理解し、今後のサービスにつな げていけるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	日ごろ利用者様の会話、バイタル記録、ホーム 日誌、個人記録、職員からの情報により把握し ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	一日の過ごし方、心身状態、有する力の変化 などをモニタリング表に書き込み、現状に合っ た介護計画を作成している。介護計画とモニタ リングは6ヶ月毎に行いカンファレンス時に全職 員に配布し検討し意見を出し合い作成してい る。	ケアマネジャーがアセスメントを行い、家族意 見を電話やお便りで収集して原案を作成して いる。サービス担当者会議はミーティング時に 行いプランの周知を行っている。モニタリング はケアプラン2表のニーズの項目について、半 年ごとに行いプランも更新している。記録は日 誌にひとり一人の午前の状態、午後の状態、 夜間の状態に分けて記入されている。この他 にバイタルや入浴、排泄等(三測表)がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活日誌、記録日誌、医療日誌と、それぞれ分かりやすい日誌となっている。日々の記録から問題点や様子が分かりプランの見直しが行いやすい。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	経営者のターミナルケアの方針を含め多機能化されている。かかりつけ医の指導のもとターミナまで受け入れ体制を整えている。又、歯医者等の指導の下口腔ケアに力を注いでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響の為、外出は出来ていない。毎週金曜日に近くの魚屋さんから刺身を注文したり2か月に1度近くの床屋さんに来ていただき散髪をして頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターを定め、定期往診、臨時往診を依頼している。又、本人やご家族様の意向により、他の医療機関への受診の対応に同行し支援しています。利用者の主治医は協力医療機関となっており週に1度往診してくれている。それ以外にも発熱時には、その都度対応してくれている。常に適切な医療につなぐことが出来ている。	主治医は協力医療機関であり、毎週往診してくれる。また、24時間オンコール対応してくれるので急な発熱等の時にも適切に対応してくれている。他科受診や入院の場合には、主治医が紹介状を書いてくれ事業所で通院介助をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師1名、正看護師が1名勤務しており、状態変化時、連絡を密にし、異常の早期発見、苦痛緩和に努め救急処置の支援をしている。看護師への連絡体制は、いつでも出来るようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホームドクターの指示のもと他の科への受診、入院先とも連携をとって情報を得て介護。看護に役立っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要説明書に記載し同意書を得ている。看取り支援の契約をされている方が数名おられます。ホームドクターの指示のもと連携をとりながら看取りケアを行っている。	平均要介護度は3.3と高く、重度の方が多いので現在2名の方が看取りの契約を行っている。家族とよく話し合い、同意を得られた場合には主治医等と連携をとりながら看取りを行っている。看取りの歴史があり、事務室の壁にはここで看取りをした方々の遺影が10数人分飾ってある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	正看護師の指示のもと応急時の対応などを勉強している。 AEDを設置している。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	緊急連絡網を含めた「緊急時マニュアル」がある。 緊急時はホームドクターと看護師の指示のもとで対応している。	「鶴の恩返しホーム指針」というファイルがあり、「感染症・食中毒の予防・まん延防止に関する指針」、「事故発生防止のための指針」、「状態観察と救急時の対応」などのマニュアルが綴られている。マニュアルの周知は、月1回のミーティングで話をするように心がけている。また、マニュアルは事務所に置いてあり、職員がいつでも手に取って見ることができる。マニュアルの見直しは、変更があれば行っている。	
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関は、升谷医院と珠洲病院で、24時間(休みも含む)往診・受診・相談が可能であり、往診、受診を通して医療機関との連携は行っている。協力医療機関以外にも宇出津病院が24時間、受診、相談が可能である。介護老人福祉施設協力施設との支援体制も確保出来ている。	協力医療機関は、車で15分程度の升谷医院である。1年を通して24時間連絡を取ることができ、週に1回定期的に、あるいは緊急時に往診してくれる。内科以外は、主治医より紹介状をもらい、珠洲病院や宇出津病院に職員が付き添い受診している。利用者は重度化の傾向があり、協力医療機関等とは、十分に連携している。バックアップ施設は、第二長寿園であり、情報交換を行っている。	
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	夜勤者は1名だが、車で3分以内の所に職員の家が有り、いついかなる時も、連絡が取れて、指示を受けて、駆けつけてもらう事が出来る。医師も夜間の対応が可能で有る。	1ユニットの事業所であるため、18時から翌朝6時までは1人体制である。夜間帯に利用者の状態に変化があった場合には、看護師と管理者に連絡を入れ、そこで判断できない場合には看護師より主治医に連絡し指示を出してもらっている。夜間帯でも主治医が往診してくれることもあり、その場合は看護師または管理者も状況を把握するためホームに来ることもある。	
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を受けている。避難経路の確認や消防設備点検は、定期的に行っているが地域住民参加にまでは至っていない。年1回地区の防災訓練参加。	今年度は、11月に緊急連絡の訓練を実施予定。そして12月に避難訓練を実施予定となっている。消防設備点検は、定期的の実施されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害マニュアル、緊急時連絡網を提示し連絡体制は整備されている。必要な備蓄品をリスト化し確保している。法人全体の応援体制も整備されている。	防災マニュアルが作成されている。「緊急連絡先一覧」、「備蓄リスト」、「家族連絡先一覧」、「避難の方法」などの項目が記載されている。マニュアルには、火災、地震、風水害豪雪について記載されている。備蓄は、食料、医薬品、暖房資材、避難用具などが保管されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本年度は、新型コロナウイルスの影響で、勉強会は実施していない。新型コロナウイルスの勉強会のみ実施。	声かけなどコミュニケーションを大切にしている。特にその人を傷つけない声かけ・話し方や本人の表情から本人の思いをくみ取るよう心がけている。出来る限り本人のニーズに合わせた支援を目指し、本人のペースを尊重するよう努めている。また、入浴時には他者に裸が見えないように配慮し、排泄介助の際は耳元で声を掛けるように配慮している。	
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外泊希望などご家族の了承を得る必要も有るが、電話で取り次ぎカラオケ、外食など本人の自己決定も含めて話し合い、出来る限りニーズに合わせられるように支援している。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り思いを汲み取るようにしているが、昼夜逆転者には、その人のペースで起床や食事を行っているが、入浴に個人のペースを尊重出来るようにしていきたい。		
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	全介助状態で清潔保持の為、衣類の管理はホームで行っている。毎日の起床時の着替えを実施している。 2か月に1回、床屋さんに来ていただき利用者の髪型の注文を聞き入れ散髪していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜や魚をご近所さんからいただき季節を味わう食事が提供され利用者は大変喜んでおいでる。エンドウ豆の香りを嗅ぎながら筋取りしたり、もやしの根取りを手伝ったり、これらの食材が、どんな料理になるのか楽しみにしておられる。	食事担当職員を配置しており、食事の買物もその職員が行っている。また、季節の野菜や魚を近所から頂くこともあり、その時期の旬の食材は提供している。サツマイモをもらったら利用者に見せ「どうやって食べる」と聞いたり、「今日鍋にするけど、なに鍋にする」と聞いてみたりしている。リビングでエンドウ豆の筋取りやもやしの根取りなどを手伝ってもらっている。そして、利用者の誕生日には、少しだけ豪華な食事の日を設けている。食事中は、職員はマスクをして食事介助を行っており、食材のこと、料理のこと、世間話など会話しながら食事を楽しんでいる。	
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎日記録し増加、低下をチェックしている。利用者一人一人の状態を観察したり排尿、排便状態も観察しチェックしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後口腔ケアを実施。利用者様が出来ない場合は、職員が支援しています。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在留置カテーテルの方が1名。極力トイレに通える方には見守り支援。一部介助が必要な方には、声掛けをトイレに誘導しています。管理はホームドクター指示のもと、看護師の判断にて定期的の下剤、排便を施行しています。毎回、おむつ交換時、陰部洗浄を実施し、汚染を予防している。	「排便表」や「1日統計表」において、個々の排泄の状況を把握している。声かけの必要な方にはタイミング良い声かけを行い、必要な方には定時のオムツ交換を行っている。医療的ケアの必要な方には、健康状態を把握するために活用している。トイレに自力で行ける方については、極力見守りで対応するよう心がけ、失敗した場合にはすぐに取り替え、清潔を保持するよう努めている。	
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ホームドクター指示のもと、水分不足の無い様に努め、排便するよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全介助状態の利用者様が3名入居していません。現在、夏は週3回・冬は週2回入浴を実施し、清潔を保持に努めている。 皆さん入浴を楽しみにしております。	夏の時期は、月・水・金曜日、冬の時期は、火・金曜日に入浴を実施している。利用者のうち8名が機械浴を利用し、1名のみが浴槽に一人で浸ることができる。入浴介助の際は、「ここは極楽の湯だよ」とか「長寿の湯だよ」とか、いろいろな会話をしながらゆっくりと浸かってもらっている。また、「あんたも一緒に入りいや」と言ってくれる方の時には、職員も一緒に膝まで浴槽に入り、介助することもある。現在入浴を拒否する方はいない。ただ、体調が悪く入浴できないときには、清拭等を行い清潔を保持している。	
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	臥床時間は利用者様に合わせています。本人の意思で眠ったり休息したり自由にしていただいています。 車椅子使用の方に関しては、長時間の使用はしていません。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を受け服薬に対する注意点、問題点などの説明を受け全職員に、その旨を理解してもらい服薬管理に関しては徹底している。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃かカラオケ、生活リハビリ、各利用者に応じた好きな事をしていただいている。 お茶碗拭き・塗り絵・新聞量などをしていただいている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年は新型コロナウイルスの影響で地域のイベントがほとんど中止になり外へ出かける事が減ってしまった。 近くの公園へ花見に行ったりドライブを車窓から楽しんでおられる。	天気の良い日はホーム周辺を散歩したり、近くの公園へ花見に行ったり、ドライブで車窓からの景色を楽しんだりしている。また、ホーム前の駐車スペースから海岸の方向を見ると、ホームが高台にあるため美しい景色を眺めることができる。	
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在いません。基本的にはご本人、ご家族の同意を得て立て替え購入しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を極力叶えています。叶えられない場合は、手紙等にて対応しています。(ご家族様の方には好まれない方もいますので)		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	立地条件がとても良く季節ごとに自然を感じられる。環境が良く四季の草花、山、海の幸に囲まれ少し道路からも離れているので騒音も気にならない。	日中はリビングで過ごす方が多いので、室温・湿度や換気、清潔保持には配慮している。リビングでは、体操したり、歌を歌ったり、ゲームをしたり、皆でのんびり楽しんでいる。また、ぬり絵をしたり、それぞれが気ままに、思いのままに過ごしてもいる。リビングでは、エアコンの風を嫌がる方とか、利用者の相性などを考慮し、テーブルの位置を変えたりして、皆が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	本人様が居心地良く生活出来るよう支援しています。フロアでは思い思いの過ごし方をしておられます。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には出かけた時やイベント時の写真を飾っている。誕生日には全職員がコメントした色紙や張り紙が飾ってある。訪室した時、それらの写真を本人と一緒に眺め思い出話に浸ったりしている。	居室の窓は、天気の良い日は網戸にし、十分に換気を行っている。身体機能が低下している方も多いため、廊下などに手すりを設置している。また、居室内には転倒防止のため、可能な限り荷物を置かないよう配慮している。そのため、個々人の荷物を収納するスペースがホーム内に確保されている。そして、居室はプライベート空間であるので、居室に入る時には声かけて入っている。また、居室にもどる時には、「ただいま」と言うことで居室であることを認識してもらっている。	
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所要所に手すりを設置し、危険のある利用者様は、リビングから見守りやすい位置とし、すぐに駆けつけられる状態で対応している。移動しやすいように動線の確認、見やすいように大きな柱時計をかけている。		